

研究の成果

スターチスにおける定植後の遮光程度とその後の生育

1. はじめに

スターチス・シヌアータの生産現場では、定植後に遮光を行い、施設内の気温を下げる対策が施されています。しかしながら、著しい遮光を行うと光合成量の低下にもつながり、生育の抑制を招くことが考えられます。

そこで、定植後の遮光程度がスターチスの生育や収量に及ぼす影響について調査したので、その結果をご紹介します。

2. 試験方法

「紀州パープル」を2008年8月25日に定植しました。定植直後から遮光資材で畝全体を囲い、遮光率を75%、50%、38%、0%（無遮光）としました。遮光は10月1日まで行いました。

また、定植後の遮光期間の影響をみるため、50%の遮光資材を用い、定植時から20日間（9月16日まで）、35日間（10月1日まで）および50日間（10月14日まで）の遮光処理を行いました。

3. 試験結果

初期の1株当たりの抽台本数は、無処理区が最も多くなり、遮光率が低い区ほど、また、遮光期間が短い区ほど多くなりました（図1、図2）。このことから、年内の切り花本数も定植後の遮光率が低い区ほど、また、遮光期間が短い区ほど多くなりました。

しかしながら、遮光率が低くなるにつれ、また、遮光期間が短くなるにつれ、切り花長や切り花重、花房数は劣る傾向にありました（表1、2）。

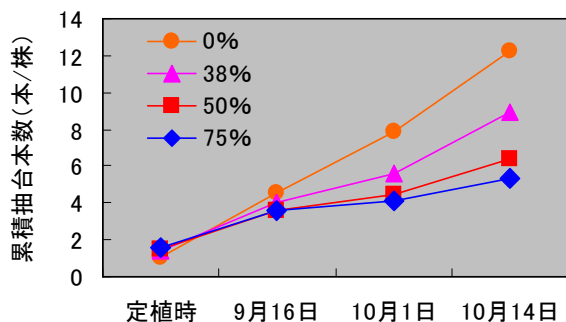


図1 定植後の遮光率と抽台本数の推移

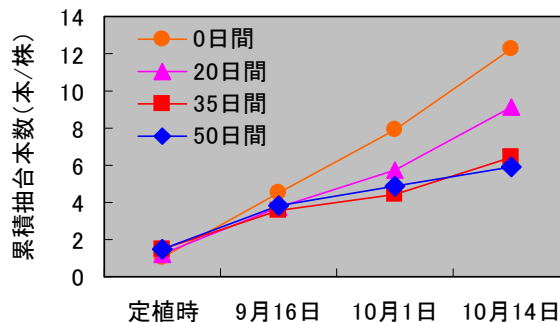


図2 定植後の遮光期間と抽台本数の推移

表1 定植後の遮光率と年内の切り花品質

遮光率 (%)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	花房数 (個)
0	73.8	30.3	5.7
38	76.6	34.6	6.0
50	82.1	42.5	6.4
75	82.9	45.2	7.1

表2 定植後の遮光期間と年内の切り花品質

遮光期間 (日)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	花房数 (個)
0	73.8	30.3	5.7
20	76.5	39.0	6.9
35	82.1	42.5	6.4
50	82.8	53.2	6.9

これらの結果、遮光率を高めすぎたり、長期間の遮光を行った場合には、抽台を抑制すること、また、遮光程度が小さい場合には、抽台本数は多いものの、切り花品質が低下する可能性が示されました。

4. おわりに

以上から、定植後の光環境はスターチスの生育に大きな影響を及ぼし、遮光程度が強過ぎたり、弱過ぎたりする場合には悪影響が現れることが明らかになりました。したがって、その年の気候やその日の天候も考慮しながら、遮光資材の付け外しが簡単に出来るよう工夫するなど、適度な遮光に努めることが重要であり、高品質安定生産のためのポイントであると考えられます。

(園芸部 島 浩二)

研究の成果